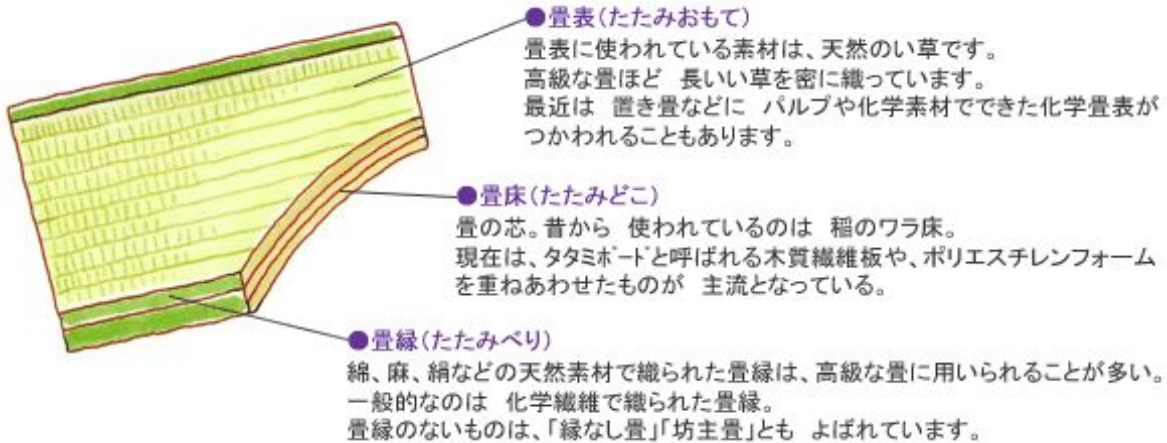


畳のお手入れ

畳は、断熱性・吸湿性・吸音性にすぐれているといわれています。
メンテナンス次第では30年でももつといえます。

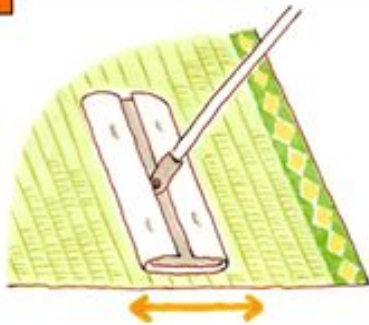
裏返しや 表替えといった作業はプロにまかせるとしても、長持ちさせるかどうかは、普段の手入れに加え、トラブルを最小限にとどめることが重要な決め手となります。

★ 畳の構造



★ 畳のおそうじ

1



ペーパーモップでから拭きして、髪の毛やチリやホコリを除く・・・。
月に1～2回は、掃除機をかけてすき間のちり・ほこりをとりましょう。

2



ぞうきんでから拭きする。気になる汚れは、固くしぼった雑巾で水拭きするか、5倍にうすめた酢をスプレーして、乾いた雑巾でしあげする。

雑巾がけの基本

「目にそって」が基本。

目に逆らうと、畳をいためる原因となります。

水ぶきするときは、ぞうきんを固くしぼり、最後から拭きして水気をしっかりふきとります。



★ 畳のメンテナンス

畳を長持ちさせるポイントは、湿気から守ることです。

定期的に 風通し・天日干しをしてやりましょう。

天気の良い日に、天日干しをするのが一番ですが、その場で 畳をあげて 風通しをするだけでも かなりの効果があります。

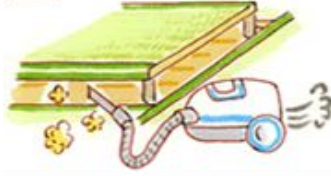
● その場で 畳をあげて 風通しをする・・・

1



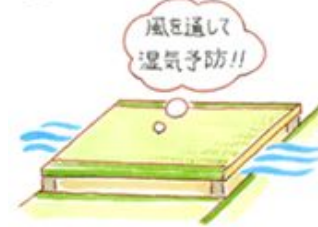
ドライバーなどの 細くて丈夫なもので畳の端を持ち上げ、空き缶などを入れて 四隅を支える。

2



持ち上げた畳のすきまから、掃除機をいれて掃除をして、床にたまった チリやホコリを吸い取る。

3



畳をあげたまま風を通します。天気の良い日に、4～5時間を目安にします。畳を元にもどすときは 手をはさまないように気をつけます。

● 年に一度の天日干し・・・

1. 畳を干すときは、畳の裏面を日光に当て、たたいてホコリをだしましょう。さらに、市販の防虫剤を散布すると良いでしょう。

2. 畳を元通りに配置しないと寸法が合わなくなる場合があるので、干す前にたたみに目印をつけておきましょう。

★ 畳のシミ抜き

醤油



小麦粉やベビーパウダーなどをふりかけて吸い取ります。そのあと掃除機をかけ、固く絞った布でふきとります。

インク



牛乳で湿らせてからふき取る。レモン汁をつけて10倍に希釈した塩素酸ソーダでふく方法もあります。

クレヨン



クレヨンの汚れにはクリームクレンザーを用います。乾いた布に少量つけてふきます。

サインペン



油性のものは、マニキュアの除光液をティッシュにつけて拭きます。水性のものは、クレンザーをつけてふき取ります。

★ アイロンをあてて へこみを直す…



へこみのある場所に 固く絞った布をおきます。上からアイロンをあてて蒸らします。

窓を開けて風通しをよくして自然乾燥させます。畳に水気を使うときは湿気がこもらないように必ず天気の良い日にやりましょう。

★ 日焼けは 酢水でふく…



畳が日焼けして 黄色く変色した部分は、10～20%にうすめた酢水でふくと 若干しろくなります。

ぞうきんは 固く絞って使いましょう。酢水のあと、水拭き、からふきをしましょう。

★ 焦げ跡を 補修する…



240番のサンドペーパーを 適当な大きさに切って、畳の目にそって軽くこすります。



小皿に 木工用接着剤を適量のせて、少量の水でときます。削った部分に 筆を使って塗り、乾燥させます。

焦げ跡を目立たなくするためには、黒く焦げた部分を削ります。削った後は、ささくれやすくなるので 接着剤を塗ります。ごく薄い焦げ後なら オキシフルで漂白しても めただなくなります。

★ 畳のシミ抜き



畳の表面がささくってしまった場合は、早めに 木工用接着剤をつかって 補修しておきましょう。放っておくと 摩擦でささくれが 広がってしまうからです。